

TCPLink Enterprise Server

560/20 エミュレータ

Ver.6.09-00

リリースメモ

Microsoft、Windows、および Azure は、米国 Microsoft Corporation の、米国、日本およびその他の国における登録商標または商標です。

目次

[Ver.6.09-00 での変更内容].....	1
---------------------------	---

[Ver.6.09-00 での変更内容]

No	概要	パッチ 区分	変更区分
1	以下の OS に対応 <ul style="list-style-type: none"> ・ Windows Server 2019 Standard ・ Windows Server 2019 Datacenter 	機能追加	システム全般
2	以下のクラウド環境での動作を確認 <ul style="list-style-type: none"> ・ アマゾンウェブサービス(AWS) ・ マイクロソフト社クラウドサービス(Azure) 	機能追加	システム全般
3	セキュリティ対応版で TLS1.0(Transport Layer Security)を無効化	仕様変更	セキュリティ
4	複数のサーバに異なるエミュレーションが導入されている場合、起動 Web ページから複数エミュレーションの同時起動を可能とするように変更	仕様変更	エミュレータ コントロール
5	「利用形態」のひとつであるエミュレータ Bean のサポートを終了	仕様変更	エミュレータ Bean
6	ユーザズマニュアルのファイル構成を変更 また、サーバ側のインストールフォルダに格納するように変更	仕様変更	マニュアル
7	クライアントインストール時、デスクトップに作成されるショートカットにエントランスサーバへの接続情報が設定されない現象を修正	修正	インストーラ/ アンインストーラ
8	クライアント認証でクライアント証明書に記述するサブジェクト名の文字数が 185 を超えていると、エントランスサービスが停止する 場合がある現象を修正	修正	セキュリティ

No	概要	パッチ 区分	変更区分
9	ブリンクを含む画面を連続して表示すると、文字が表示されなくなることがある現象を修正	修正	ディスプレイ セッション
10	[ディスプレイのプロパティ]-[カラー設定]の「拡張カラー(緑)」を緑色以外に設定しても、緑色で表示される現象を修正	修正	ディスプレイ セッション
11	区切り文字を含むデータをコピーし、貼り付けを行うと、区切り文字位置に不正な文字が貼り付けられる現象を修正	修正	ディスプレイ セッション
12	区切り文字位置のデータが文字としてコピーされる現象を修正	修正	ディスプレイ セッション
13	全角文字の直後に属性がある画面データをコピーすると、属性位置以降のデータがコピーできない現象を修正	修正	ディスプレイ セッション
14	非占有属性を含む文字列をコピーすると、非占有属性位置が空白文字としてコピーする現象を修正	修正	ディスプレイ セッション
15	非表示のキーパッドが表示される現象を修正	修正	ディスプレイ セッション
16	ローカルコピーの「出力先」を変更して設定保存すると、「出力先プリンタに対するプロパティ情報が一致しません。」で保存できない現象を修正	修正	ディスプレイ セッション

No	概要	パッチ 区分	変更区分
17	ローカルコピーの出力先に「通常使うプリンタ」を設定している場合、Windows で設定されている「通常使うプリンター」と異なるプリンタに出力される現象を修正	修正	ディスプレイ セッション
18	操作ログ機能で、環境定義の定義名に「OPEENV」、またはログ定義の定義名に「OPELOG」の文字列を指定すると、ディスプレイセッションが起動しない現象を修正	修正	ディスプレイ セッション
19	ディスプレイセッション終了時に「終了時のプリンタ情報の保存」を行うと、アプリケーションエラーが発生することがある現象を修正	修正	ディスプレイ セッション
20	プリンタの出力先に「通常使うプリンタ」を設定している場合、Windows で設定されている「通常使うプリンター」と異なるプリンタに出力される現象を修正	修正	プリンタ セッション
21	プリンタの「出力先」を変更して設定保存すると、「出力先プリンタに対するプロパティ情報が一致しません。」で保存できない現象を修正	修正	プリンタ セッション
22	プリンタのプロパティで、プリントジョブ名に半角 50 文字を指定して印刷した場合、印刷ジョブのドキュメント名にプリントジョブ名が表示されない現象を修正	修正	プリンタ セッション/ ローカルコピー
23	プリンタセッション終了時に「終了時のプリンタ情報の保存」を行うと、アプリケーションエラーが発生することがある現象を修正	修正	プリンタ セッション

No	概要	パッチ区分	変更区分
24	セキュリティ対応版でエントランスサービスがインストールされていない場合、「スタイル設定」で「コンポーネント」、「コントロール」の選択が表示される現象を修正	修正	スタイル
25	エントランスサーバのシステムプロパティで、「ホスト名」に31文字を超えるホスト名を指定した場合、クライアントマネージャが起動しない現象を修正	修正	サーバツール
26	リモートセッションモニタを利用時、ユーザ登録 [ユーザの設定] の「ユーザ名」にスラッシュ(/)、シングルクォーテーション(')、半角カナ文字、半角スペースの文字が含まれていると、起動エラーとなる現象を修正	修正	サーバツール
27	リモートツールで操作タイムアウトが発生した場合のエラーメッセージ内容を統一	修正	ツール
28	EHLLAPI の Copy Presentation Space(機能番号：5)で、「データ・ストリング長」に指定した値で文字列をコピーしてしまう現象を修正	修正	API 機能
29	EHLLAPI を利用したアプリケーションが終了できない現象を修正	修正	API 機能
30	文字列パラメータにダブルクォーテーション(")が含まれたマクロファイルをマクロ編集ツールで開くと、ダブルクォーテーション(")行がコメントとして扱われる現象を修正	修正	マクロ

No	概要	パッチ区分	変更区分
31	If コマンドで TES.Text プロパティによるエミュレータ画面上の文字列検索ができない現象を修正	修正	マクロ
32	If コマンドで TES.Text プロパティによる文字列検索を行うと、アプリケーションエラーが発生することがある現象を修正	修正	マクロ
33	Timeout コマンドでタイムアウト値を「0」に設定した場合、条件指定コマンドが失敗する現象を修正	修正	マクロ
34	条件指定(Wait、While)機能のコマンドで「¥」を含む文字列を指定した場合、エミュレータ画面上に文字があるにも関わらず、待機解除、または待機できない現象を修正	修正	マクロ
35	マクロコマンド WaitEMLKey、WaitMacro で待機中に機能キーの実行、キー入力を行うと、マクロコマンド実行時に指定された待機時間より短い時間でマクロコマンドが完了する現象を修正	修正	マクロ
36	ディスプレイセッションのヘルプ、「入力禁止メッセージ」に、不要な「取消キー」ヘルプと、「取消キー 通信チェック n n n」記載されている誤記を修正	修正	ヘルプ
37	操作ログサービスマネージャのメニュー「管理」－「操作ログサービスの停止」選択時、ステータスバーに表示されるヘルプ説明の誤記を修正	修正	ヘルプ

No	概要	パッチ 区分	変更区分
38	EHLLAPI のリファレンスヘルプ、Copy Presentation Space(機能番号：5)の説明の誤記を修正	修正	ヘルプ

No.7	クライアントインストール時、デスクトップに作成されるショートカットにエントランスサーバへの接続情報が設定されない現象を修正
発生条件	<p>以下の条件をすべて満たしている場合。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「クライアントマネージャ起動」 ページ以外のページからインストールを行い、エミュレータを利用 ・クライアントアドミニストレーションキットで「クライアントマネージャのショートカットを作成する」を有効にした、クライアントインストーラーを作成 ・既にインストールされているクライアントをアンインストールせず、上記のクライアントインストーラーを実行
障害内容	デスクトップのショートカットからのセッション起動ができない。
アップデート未実施時の回避策	<p>以下のいずれかの方法を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ページからインストール後、アンインストールを行わないまま、クライアントインストーラーで再インストールしない ・クライアントインストーラーで再インストールする際に「カスタムインストール」を選択し、「IP アドレス」と「ポート番号」を指定してインストールする

No.8	クライアント認証でクライアント証明書に記述するサブジェクト名の文字数が185を超えていると、エントランスサービスが停止する現象を修正
発生条件	<p>以下の条件をすべて満たしている場合。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セキュリティ設定のクライアントの認証方法において、「クライアントに対して証明書を要求する」が設定されている ・クライアント認証で使用するクライアント証明書のサブジェクトが185文字を超えている ・クライアントからクライアントマネージャ、あるいはセッションを起動する
障害内容	エントランスサービスが停止するため、セッション起動ができなくなる。
アップデート未実施時の回避策	特になし。

No.9	ブリンクを含む画面を連続して表示すると、文字が表示されなくなることがある現象を修正
発生条件	以下の条件をすべて満たしている場合。 ・[ディスプレイのプロパティ] - [詳細設定] タブで「ブリンクモード」に「ブリンク」を選択 ・ブリンクフィールドを含む画面データの描画処理中にブリンク間隔による描画を実行
障害内容	文字が表示されない。
アップデート未実施時の回避策	[ディスプレイのプロパティ] - [詳細設定] タブで「ブリンクモード」に「ブリンク」以外を選択。

No.10	[ディスプレイのプロパティ]-[カラー設定]の「拡張カラー(緑)」を緑色以外に設定しても、緑色で表示される現象を修正
発生条件	色指定があるカラー属性を1つも含まない画面の文字色の場合。 ※以下のような画面での文字色が該当する。 ・ディスプレイ起動直後でホストからデータを受信していない ・全消去キーで全画面消去後 ・色指定があるカラー属性を1つも含まない画面データ受信後
障害内容	「拡張カラー(緑)」を緑色以外に設定しても、緑色で表示される。
アップデート未実施時の回避策	特になし。

No.11	区切り文字を含むデータをコピーし、貼り付けを行うと、区切り文字位置に不正な文字が貼り付けられる現象を修正
発生条件	以下のいずれかの条件を満たしている場合。 <ul style="list-style-type: none"> ・[ディスプレイのプロパティ] - [編集設定] タブで「区切り文字」に「なし」を設定 ・[ディスプレイのプロパティ] - [編集設定] タブで「区切り文字」に「指定」を設定し、「文字指定」を空白に設定
障害内容	区切り文字位置に不正な文字が貼り付けられる。
アップデート未実施時の回避策	特になし。

No.12	区切り文字位置のデータが文字としてコピーされる現象を修正
発生条件	以下の条件をすべて満たしている場合。 <ul style="list-style-type: none"> ・[ディスプレイのプロパティ] - [編集設定] タブで「区切り文字」に「なし」、 「区切り文字位置」に「属性文字」以外を設定 ・コピー対象の画面文字列に「区切り文字位置」に指定した文字が存在
障害内容	「区切り文字位置」に指定した文字が除去されず、そのまま貼り付く。
アップデート未実施時の回避策	特になし。

No.13	全角文字の直後に属性がある画面データをコピーすると、属性位置以降のデータがコピーできない現象を修正
発生条件	以下の条件をすべて満たしている場合。 <ul style="list-style-type: none"> ・[ディスプレイのプロパティ] - [編集設定] タブで「区切り文字」に「なし」、 「区切り文字位置」に「属性文字」を設定 ・コピー対象の画面文字列に全角文字の直後に属性が存在
障害内容	全角文字直後の属性位置までのデータしか貼り付けできない。
アップデート未実施時の回避策	特になし。

No.14	非占有属性を含む文字列をコピーすると、非占有属性位置が空白文字としてコピーする現象を修正
発生条件	以下の条件をすべて満たしている場合。 ・「ディスプレイのプロパティ」－「編集設定」タブで、「区切り文字」に「なし」を設定 ・「ディスプレイのプロパティ」－「編集設定」タブで、「区切り文字位置」に「属性文字」を設定 ・文字がない非占有属性を含む文字列をコピー
障害内容	非占有属性が空白文字としてクリップボードにコピーするため、貼り付けるを行うと、余分な空白文字が貼り付けられる。
アップデート 未実施時の 回避策	特になし。

No.15	非表示のキーパッドが表示される現象を修正
発生条件	以下の操作を行った場合。 1. サーバ側、クライアント側のディスプレイ構成定義でキーパッドを設定 2. ディスプレイセッション起動時にキーパッドを表示 3. キーパッドを閉じる 4. [ディスプレイのプロパティ] を開き、更新して閉じる
障害内容	非表示のキーパッドが表示される。
アップデート 未実施時の 回避策	特になし。

No.16	ローカルコピーの「出力先」を変更して設定保存すると、「出力先プリンタに対するプロパティ情報が一致しません。」で保存できない現象を修正
発生条件	<p>[ローカルコピーのプロパティ] - [基本設定] タブで、以下のすべての設定を行った場合。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「編集形式」が「Windows プリンタドライバ」 ・「印刷時のプリンタ情報の反映」がオン ・「出力先」のプリンタのプロパティを設定 ・「出力先」のプリンタを、プロパティ設定済のプリンタから別のプリンタに変更し、設定を保存
障害内容	<p>出力先プリンタを変更して保存すると、下記メッセージが表示される。</p> <p>「出力先プリンタに対するプロパティ情報が一致しません。」</p>
アップデート未実施時の回避策	<p>[ローカルコピーのプロパティ] - [基本設定] タブで「出力先」のプリンタを変更する場合、プリンタを変更後に「出力先」の [プロパティ] ボタンを押してプリンタのプロパティを設定してから、設定を保存する。</p>

No.17	ローカルコピーの出力先に「通常使うプリンタ」を設定している場合、Windows で設定されている「通常使うプリンター」と異なるプリンタに出力される現象を修正
発生条件	<p>以下の条件をすべて満たしている場合。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クライアント端末側の Windows の「通常使うプリンター」に全角文字を含むプリンタを設定 ・サーバマネージャの DISPLAY の構成定義 - [ローカルコピーのプロパティ] - [基本設定] タブの「出力先」が「通常使うプリンタ」
障害内容	Windows の「通常使うプリンター」とは異なるプリンタに出力される。
アップデート未実施時の回避策	クライアント端末側の Windows の「通常使うプリンター」に全角文字を含むプリンタを設定しない。(あるいは、全角文字を含むプリンタの名前を変更して半角文字のみとする)

No.18	操作ログ機能で、環境定義の定義名に「OPEENV」、またはログ定義の定義名に「OPELOG」の文字列を指定すると、ディスプレイセッションが起動しない現象を修正
発生条件	<p>以下の条件をすべて満たしている場合。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・操作ログ設定ツールで、「環境定義」－「定義名」に「OPEENV」、または「ログ定義」－「定義名」に「OPELOG」の文字列を設定 ・サーバマネージャでユーザグループの設定で「操作ログの設定」－「環境定義名」、または「操作ログの設定」－「ログ定義名」に上記定義名を設定 <p>※「OPEENV」「OPELOG」は製品の予約語</p>
障害内容	<p>次のエラーが発生し、ディスプレイセッションの起動ができない。</p> <p>「セッションの接続に失敗しました。 (0x80042205, 0x80041F5D)」</p>
アップデート未実施時の回避策	構成定義の定義名に「OPEENV」、ログ定義の定義名に「OPELOG」の文字列を指定しない。

No.19	ディスプレイセッション終了時に「終了時のプリンタ情報の保存」を行うと、アプリケーションエラーが発生することがある現象を修正
発生条件	<p>以下の条件をすべて満たしている場合。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クライアント端末側の Windows の「通常使うプリンター」に全角文字を含むプリンタを設定 ・サーバマネージャの DISPLAY の構成定義－[ローカルコピーのプロパティ]－[基本設定] タブの「出力先」が「通常使うプリンタ」 ・サーバマネージャの DISPLAY の構成定義－[ローカルコピーのプロパティ]－[基本設定] タブの「終了時のプリンタ情報の保存」がオン
障害内容	<p>ディスプレイセッション終了時に、下記メッセージが表示される。</p> <p>「予期せぬエラーが発生しました。」</p>
アップデート未実施時の回避策	クライアント端末側の Windows の「通常使うプリンター」に全角文字を含むプリンタを設定しない。(あるいは、全角文字を含むプリンタの名前を変更して半角文字のみとする)

No.20	プリンタの出力先に「通常使うプリンタ」を設定している場合、Windowsで設定されている「通常使うプリンター」と異なるプリンタに出力される現象を修正
発生条件	以下の条件をすべて満たしている場合。 <ul style="list-style-type: none"> ・クライアント端末側の Windows の「通常使うプリンター」に全角文字を含むプリンタを設定 ・サーバマネージャの PRINTER の構成定義－ [プリンタのプロパティ] － [基本設定] タブの「出力先」が「通常使うプリンタ」
障害内容	Windows の「通常使うプリンター」とは異なるプリンタに出力される。
アップデート未実施時の回避策	クライアント端末側の Windows の「通常使うプリンター」に全角文字を含むプリンタを設定しない。(あるいは、全角文字を含むプリンタの名前を変更して半角文字のみとする)

No.21	プリンタの「出力先」を変更して設定保存すると、「出力先プリンタに対するプロパティ情報が一致しません。」で保存できない現象を修正
発生条件	[プリンタのプロパティ] － [基本設定] タブで、以下のすべての設定を行った場合。 <ul style="list-style-type: none"> ・「編集形式」が「Windows プリンタドライバ」 ・「印刷時のプリンタ情報の反映」がオン ・「出力先」のプリンタのプロパティを設定 ・「出力先」のプリンタを、プロパティ設定済のプリンタから別のプリンタに変更し、設定を保存
障害内容	出力先プリンタを変更して保存すると、下記メッセージが表示される。 「出力先プリンタに対するプロパティ情報が一致しません。」
アップデート未実施時の回避策	[プリンタのプロパティ] － [基本設定] タブで「出力先」のプリンタを変更する場合、プリンタを変更後に「出力先」の [プロパティ] ボタンを押してプリンタのプロパティを設定してから、設定を保存する。

No.22	プリンタのプロパティで、プリントジョブ名に半角 50 文字を指定して印刷した場合、印刷ジョブのドキュメント名にプリントジョブ名が表示されない現象を修正
発生条件	「プリンタのプロパティ」－「詳細設定」、または「ローカルコピーのプロパティ」－「詳細設定」タブで、「プリンタジョブ名」に半角 50 文字の文字列を指定した場合。
障害内容	印刷ジョブのドキュメント名にプリンタジョブ名が表示されず、数字の連番だけ表示される。
アップデート未実施時の回避策	プリンタジョブ名に半角 50 文字以下に設定する。

No.23	プリンタセッション終了時に「終了時のプリンタ情報の保存」を行うと、アプリケーションエラーが発生することがある現象を修正
発生条件	<p>以下の条件をすべて満たしている場合。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クライアント端末側の Windows の「通常使うプリンター」に全角文字を含むプリンタを設定 ・サーバマネージャの PRINTER の構成定義－ [プリンタのプロパティ] － [基本設定] タブの「出力先」が「通常使うプリンタ」 ・サーバマネージャの PRINTER の構成定義－ [プリンタのプロパティ] － [基本設定] タブの「終了時のプリンタ情報の保存」がオン
障害内容	<p>プリンタセッション終了時に、下記メッセージが表示される。</p> <p>「予期せぬエラーが発生しました。」</p>
アップデート未実施時の回避策	クライアント端末側の Windows の「通常使うプリンター」に全角文字を含むプリンタを設定しない。(あるいは、全角文字を含むプリンタの名前を変更して半角文字のみとする)

No.24	セキュリティ対応版でエントランスサービスがインストールされていない場合、「スタイル設定」で「コンポーネント」、「コントロール」の選択が表示される現象を修正
発生条件	以下のすべての条件を満たしている場合。 <ul style="list-style-type: none"> ・セキュリティ対応版 ・セッションサービス、またはマネージメントサービスがインストールされている ・エントランスサービスがインストールされていない ・スタイル設定を実行
障害内容	エントランスサービスがインストールされていない状態で、「スタイル設定」で「コンポーネント」、「コントロール」の選択が可能となる。
アップデート未実施時の回避策	特になし。

No.25	エントランスサーバのシステムプロパティで、「ホスト名」に31文字を超えるホスト名を指定した場合、クライアントマネージャが起動しない現象を修正
発生条件	エントランスサーバの「システムプロパティ」で、「ホスト名」に31文字を超える文字を指定した場合。
障害内容	「この web ページに問題があるためタブを開き直しました。」を表示し、クライアントマネージャが起動できない。
アップデート未実施時の回避策	「セッション一覧」ページなど、他のページからエミュレータセッションを起動する。

No.26	リモートセッションモニタを利用時、ユーザ登録 [ユーザの設定] の「ユーザ名」にスラッシュ(/)、シングルクォーテーション(')、半角カナ文字、半角スペースの文字が含まれていると、起動エラーとなる現象を修正
発生条件	サーバマネージャで、ユーザ登録 [ユーザの設定] の「ユーザ名」に、スラッシュ(/)、シングルクォーテーション(')、半角カナ文字、半角スペースの文字が含まれている場合。
障害内容	リモートセッションモニタを起動すると、下記メッセージが表示される。 「新規ユーザ登録 処理は異常終了しました。(終了コード=0x0086)」
アップデート未実施時の回避策	サーバマネージャでユーザ名を登録する場合、スラッシュ(/)、シングルクォーテーション(')、半角カナ文字、半角スペースの文字を指定しない。

No.27	リモートツールで操作タイムアウトが発生した場合のエラーメッセージ内容を統一
発生条件	下記ツールで操作タイムアウトが発生した場合。 <ul style="list-style-type: none"> ・リモートセッションモニタ ・リモートエントランスモニタ ・ログコントロールツール ・ログ解析ツール
障害内容	メッセージ内容が統一されていない
アップデート 未実施時の 回避策	特になし。

No.28	EHLLAPI の Copy Presentation Space(機能番号：5)で、「データ・ストリング長」に指定した値で文字列をコピーしてしまう現象を修正
発生条件	Copy Presentation Space(機能番号：5)の呼び出し時に、関数のパラメータ「データ・ストリング長」に、プレゼンテーション領域のコピーに必要なバッファのサイズより、小さい値を指定している場合。
障害内容	「データ・ストリング長」に指定した文字数しか取得できない。
アップデート 未実施時の 回避策	「データ・ストリング長」にプレゼンテーション領域の全体のサイズを指定する。 ※セッション・オプションの指定によっては、画面サイズの2倍~4倍のサイズが必要。

No.29	EHLLAPI を利用したアプリケーションが終了できない現象を修正
発生条件	特定の発生条件は無く、実行端末の処理速度に依存。
障害内容	EHLLAPI を利用したアプリケーションが終了できない。 タスクマネージャーで見ると、「プロセス」には表示されていないが、「詳細」にはアプリケーションが表示されたままとなっている。
アップデート 未実施時の 回避策	特になし。

No.30	文字列パラメータにダブルクォーテーション(")が含まれたマクロファイルをマクロ編集ツールで開くと、ダブルクォーテーション(")行がコメントとして扱われる現象を修正
発生条件	マクロファイルの文字列パラメータにダブルクォーテーション(")が含まれる場合。
障害内容	マクロ編集ツールでマクロファイルを開くと、下記メッセージが表示し発生条件を満たした行がコメントとして扱われる。 「マクロファイルに誤った記述が存在しましたので、誤りのある行はすべてコメントに変換されました。」
アップデート 未実施時の 回避策	特になし。

No.31	If コマンドで TES.Text プロパティによるエミュレータ画面の文字列検索ができない現象を修正
発生条件	TES.Text プロパティに文字列を指定し、If コマンドで条件分岐する場合。
障害内容	If コマンドで画面の文字列を検索できない。
アップデート 未実施時の 回避策	特になし。

No.32	If コマンドで TES.Text プロパティによる文字列検索を行うと、アプリケーションエラーが発生することがある現象を修正
発生条件	以下の条件をすべて満たしている場合。 <ul style="list-style-type: none"> ・ TES.Text プロパティに文字列を指定し、If コマンドで条件分岐する ・ エミュレータ画面に全角文字がある
障害内容	If コマンドの実行でアプリケーションエラーが発生し、以後セッションが起動できなくなる。
アップデート 未実施時の 回避策	特になし。

No.33	Timeout コマンドでタイムアウト値を「0」に設定した場合、条件指定コマンドが失敗する現象を修正
発生条件	Timeout=0 を設定した後に、以下のマクロコマンドを呼び出すマクロを再生した場合。 <ul style="list-style-type: none"> ・ TES.WaitCursorPos ・ TES.WaitExtraChar ・ TES.WaitInhibited ・ TES.WaitOwner ・ TES.WaitString ・ TES.WaitText ・ TES.WhileCursorPos ・ TES.WhileExtraChar ・ TES.WhileInhibited ・ TES.WhileOwner ・ TES.WhileString ・ TES.WhileText
障害内容	条件指定コマンドが失敗するため、正常時のマクロ記述が実行されない。
アップデート 未実施時の 回避策	Timeout=0 の指定を行わない。

No.34	条件指定(Wait、While)機能のコマンドで「¥」を含む文字列を指定した場合、エミュレータ画面上に文字があるにも関わらず、待機解除、または待機できない現象を修正
発生条件	待機条件に「¥」を含む文字列を指定し、以下のマクロコマンドを呼び出すマクロを再生した場合。 <ul style="list-style-type: none"> ・ TES.WaitString ・ TES.WaitText ・ TES.WhileString ・ TES.WhileText
障害内容	条件指定(Wait)機能のコマンドで文字列判断での待機解除ができない。 条件指定(While)機能のコマンドで文字列判断での待機ができない。
アップデート未実施時の回避策	待機条件に「¥」を含む文字列の指定を行わない。

No.35	マクロコマンド WaitEMLKey、WaitMacro で待機中に機能キーの実行、キー入力を行うと、マクロコマンド実行時に指定された待機時間より短い時間でマクロコマンドが完了する現象を修正
発生条件	マクロコマンド WaitEMLKey、WaitMacro で待機中に、WaitEMLKey で指定された機能キー以外の機能キー、またはキー入力を行う場合。
障害内容	指定された待機時間より短い時間でマクロコマンドが完了し、次行で指定マクロコマンドを実行されるため、正しくマクロ再生が実行できない。
アップデート未実施時の回避策	特になし。

No.36	ディスプレイセッションのヘルプ、「入力禁止メッセージ」に、不要な「取消キー」ヘルプと、「取消キー 通信チェック nnn」記載されている誤記を修正
変更内容	<p>ディスプレイセッションのヘルプ、「入力禁止メッセージ」を表示した場合。</p> <p><誤> 「取消キー」 「取消キー通信チェック nnn」</p> <p><正> 「取消キー通信チェック nnn」</p>
参照先	[ディスプレイセッション] のヘルプー [ガイドラインメッセージ] - [入力禁止メッセージ]

No.37	操作ログサービスマネージャのメニュー「管理」-「操作ログサービスの停止」選択時、ステータスバーに表示されるヘルプ説明の誤記を修正
変更内容	<p>操作ログサービスマネージャのメニュー [管理] - 「操作ログサービスの停止」にマウスポインタを移動した場合。</p> <p><誤> 操作ログサービスを開始します。</p> <p><正> 操作ログサービスを停止します。</p>
参照先	操作ログサービスマネージャのメニュー [管理] - 「操作ログサービスの停止」のステータスバー。

No.38	EHLLAPI のリファレンスヘルプ、Copy Presentation Space(機能番号：5) の説明の誤記を修正
変更内容	<p>「パラメータ」-「データ・ストリング長」の説明の誤りを修正。</p> <p><誤></p> <p>「コピーするバッファのバイト数を指定する。 コピーに必要なバイト数が戻される。」</p> <p><正></p> <p>「コピーされたバイト数が戻される。」</p> <p>また、「パラメータ」-「データ・ストリング」の説明に以下の記述を追加。 「コピーするためのバッファが十分でない場合、予期しない問題が発生する可能性がある。」</p>
参照先	<p>以下のいずれかの手順。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「関数索引」－「機能番号順索引」－「Copy Presentation Space(5)」 ・「関数索引」－「アルファベット順索引」－「C」－「Copy Presentation Space(5)」 ・「関数索引」－「カテゴリ別索引」－「プレゼンテーション領域関数」－「Copy Presentation Space(5)」

TCPLink Enterprise Server

560/20 エミュレータ

Ver6.08-02

リリースメモ

Microsoft は、米国 Microsoft Corporation の、米国、日本およびその他の国における登録商標または商標です。

目次

[Ver.6.08-02 での変更内容].....	1
---------------------------	---

[Ver.6.08-02 での変更内容]

No	概要	VerUp 区分	変更区分
1	Microsoft Internet Information Services へ追加する TCPLink Enterprise Server（以降 TES）の仮想ディレクトリ名に、デフォルト値 [Mercury] [MercuryASP] 以外を設定している環境に対してバージョンアップインストールを行うと、TES で提供している Web ページが表示されなくなる現象を修正	修正	インストーラ/ アンインストーラ
2	旧バージョンと異なるサーバシリアル番号のライセンスキーでバージョンアップインストールを行うと、TES のサービスが起動不可となる現象を修正	修正	インストーラ/ アンインストーラ

No.1	Microsoft Internet Information Services へ追加する TES の仮想ディレクトリ名に、デフォルト値 [Mercury] [MercuryASP] 以外を設定している環境に対してバージョンアップインストールを行うと、TES で提供している Web ページが表示されなくなる現象を修正
発生条件	TES の仮想ディレクトリ名の設定項目「HTML ファイル」、または「ASP ファイル」にデフォルト値 [Mercury] [MercuryASP] 以外が設定されている環境に、バージョンアップインストールを行う。
障害内容	TES で提供している Web ページが表示されない。
アップデート未実施時の回避策	一旦設定を残してアンインストールし、再度仮想ディレクトリ名を指定して新規インストールを行う。

No.2	旧バージョンと異なるサーバシリアル番号のライセンスキーでバージョンアップインストールを行うと、TES のサービスが起動不可となる現象を修正
発生条件	旧バージョンと異なるサーバシリアル番号のライセンスキーでバージョンアップインストールを行う。
障害内容	以下の現象が発生する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ マネージメントサービス、およびエントランスサービスが起動不可となる ・ バージョンアップインストール時、「シリアル番号が一致しません」のエラーで中断された後、サーバマネージャを起動すると「システム情報の取得に失敗しました」のメッセージが表示される ・ 正しいサーバシリアル番号のライセンスキーで改めてバージョンアップインストールを行うと、「指定されたファイルが見つかりません」のエラーとなりバージョンアップインストールができない
アップデート未実施時の回避策	特になし。

TCPLink Enterprise Server

560/20 エミュレータ

Ver6.08-01

リリースメモ

Microsoft、Windows、Windows Server、Windows Vista および Internet Explorer は、米国 Microsoft Corporation の、米国、日本およびその他の国における登録商標または商標です。

目次

[Ver.6.08-01 での変更内容].....	1
---------------------------	---

[Ver.6.08-01 での変更内容]

No	概要	VerUp 区分	変更区分
1	以下の OS に対応 <サーバ> <ul style="list-style-type: none">・ Windows Server 2016 Standard Edition・ Windows Server 2016 Datacenter Edition	機能追加	システム全般
2	以下の OS を動作対象から削除 <サーバ> <ul style="list-style-type: none">・ Windows Server 2008 Standard Edition SP2 (x86, x64)・ Windows Server 2008 Enterprise Edition SP2 (x86, x64) <クライアント> <ul style="list-style-type: none">・ Windows Vista Business SP2 (x86, x64)・ Windows Vista Enterprise SP2 (x86, x64)・ Windows Vista Ultimate SP2 (x86, x64)	仕様変更	システム全般

No	概要	VerUp 区分	変更区分
3	<p>インストール時の機能変更</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ インストーラの画面デザインを変更した ・ インストールされていないサービスを追加インストールできる機能を追加した ・ インストール完了時のサービスを開始するかどうかを選択可能とした ・ Windows Server の役割にインターネットインフォメーションサービスが追加されていない場合、インストールを続行するかどうかを選択可能とした <p>また、以下の制限事項を追加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ セキュリティ対応版のバージョンアップを実施する場合、セキュリティ設定の内容を引き継ぐことができなくなったため、V6.08-01 のインストール後、再度同じ設定を行う必要がある 	機能追加	インストーラ／アンインストーラ
4	アンインストーラの画面デザインを変更した	仕様変更	インストーラ／アンインストーラ
5	<p>セキュリティ対応版で使用している暗号化ライブラリを「RSA BSAFE Micro Edition Suite」(MES) から「Security Support Provider Interface」(SSPI) に変更</p> <p><用語説明> SSPI 【 Security Support Provider Interface 】: Microsoft Windows においてセキュリティに関する様々な機能を提供する API</p>	仕様変更	セキュリティ

No	概要	VerUp 区分	変更区分
6	<p>セキュリティ対応版で、以下の機能を強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 起動中のセッションの TLS 通信で利用している証明書の表示 ・ セキュリティ設定で読み込ませた証明書、および CRL の内容表示 ・ クライアント認証のオプションで使用する CRL の複数登録 <p>クライアント認証のオプションで以下の機能のサポートを終了</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ハードウェアトークン ・ リポジトリの参照機能 ・ LDAP による失効確認 ・ OCSP による失効確認 ・ PKCS#8 形式の秘密鍵ファイルの読み込み <p><用語説明></p> <p>TLS【Transport Layer Security】</p> <p>CRL【Certificate Revocation List】： 証明書失効リスト</p> <p>LDAP【Lightweight Directory Access Protocol】</p> <p>OCSP【Online Certificate Status Protocol】</p> <p>PKCS【Public-Key Cryptography Standards】</p>	機能追加	セキュリティ
7	<p>[ディスプレイのプロパティ] - [基本設定] タブの [フォント名] の設定にユニコードに対応していないフォントを指定すると、ホストからの「¥」（半角の円記号）を受信や、端末から「¥」を入力すると「・」で表示される現象を修正</p>	修正	ディスプレイセッション

No	概要	VerUp 区分	変更区分
8	初回プリンタ起動時に出力先が空になり、印刷できない現象を修正	修正	プリンタセッション
9	プリンタセッションで、RFC1646 で規定されている以外のエラーコードを返す現象を修正	修正	プリンタセッション
10	ローカルコピーを実行すると、ディスプレイセッションのガイドラインに「お待ちください」が表示されたままとなり印刷できない現象を修正	修正	エミュレータコントロール
11	マクロコマンド使用時にホストからデータを受信すると、アプリケーションエラーとなる現象を修正	修正	HTML 変換／エミュレータ Bean
12	エミュレータ Bean で使用する JAR ファイルに対するコード署名の署名アルゴリズムを SHA-2 に変更	修正	エミュレータ Bean
13	スタイル設定で、登録されているスタイルの削除を行うと、「HTTP 500 内部サーバーエラー」となる現象を修正 スタイル設定の上限を 300 とし、上限を超えてスタイルを作成しようとするエラーメッセージを表示するよう変更	修正	スタイル
14	バージョンアップインストール時にエラーが発生し、バージョンアップインストールに失敗する現象を修正	修正	インストーラ／アンインストーラ
15	「ダウンロードしない」を設定しても、クライアントにモジュールの一部がダウンロードされる現象を修正	修正	インストーラ／アンインストーラ

No	概要	VerUp 区分	変更区分
16	操作ログツールのアンインストール後、操作ログツールのプログラムメニューが削除されずに残る現象を修正	修正	ツール
17	操作ログツールのインストール後、操作ログビューア初回起動時にエミュレーションの問い合わせがある現象を修正	修正	ツール
18	操作ログツールのインストーラで、「プログラムフォルダ名の指定」画面でショートカットキー「Alt+P」が効かない現象を修正	修正	ツール

No.7	[ディスプレイのプロパティ] - [基本設定] タブの [フォント名] の設定にユニコードに対応していないフォントを指定すると、ホストからの「¥」（半角の円記号）を受信する、または端末から「¥」を入力すると「・」で表示される現象を修正
発生条件	[ディスプレイのプロパティ] - [基本設定] タブの [フォント名] の設定に、ユニコードに対応していないフォントが設定されている場合。
障害内容	ホストからの「¥」（半角の円記号）を受信する、または端末から「¥」を入力すると「・」で表示される。
アップデート 未実施時の 回避策	[ディスプレイのプロパティ] - [基本設定] タブの [フォント名] の設定に、ユニコードに対応しているフォントを設定する。

No.8	初回プリンタ起動時に出力先が空になり、印刷できない現象を修正
発生条件	<p>以下の条件をすべて満たしている場合。</p> <p>プリンタセッションの場合。</p> <ul style="list-style-type: none"> OS が Windows 10 Anniversary Update (Version 1607)、または Windows 10 Creators Update (Version 1703) である Windows 10 の設定で「Windows で通常使うプリンターを管理する」を一度もオフにしていない Windows 10 Anniversary Update を適用後、その端末で印刷（エミュレータ以外も含む）を行っていない プリンタセッションのプロパティを初回起動から一度も変更していない <p>ローカルコピーの場合。</p> <ul style="list-style-type: none"> OS が Windows 10 Anniversary Update (Version 1607)、または Windows 10 Creators Update (Version 1703) である Windows 10 の設定で「Windows で通常使うプリンターを管理する」を一度もオフにしていない Windows 10 Anniversary Update を適用後、その端末で印刷（エミュレータ以外も含む）を行っていない ローカルコピーのプロパティを初回起動から一度も変更していない
障害内容	<p>プリンタセッションの場合。</p> <ul style="list-style-type: none"> 印刷を行うと「印刷中にエラー検出」となり印刷できない <p>ローカルコピーの場合。</p> <ul style="list-style-type: none"> 印刷が行われない
アップデート未実施時の回避策	<p>以下のいずれかの方法を行う。</p> <p>プリンタセッションの場合。</p> <ul style="list-style-type: none"> Windows 10 の設定で「Windows で通常使うプリンターを管理する」をオフにする Windows 10 Anniversary Update を適用後、エミュレータで印刷する前に、メモ帳などで一度印刷しておく プリンタセッションのプロパティで出力先プリンタを設定する <p>ローカルコピーの場合。</p> <ul style="list-style-type: none"> Windows 10 の設定で「Windows で通常使うプリンターを管理する」をオフにする Windows 10 Anniversary Update を適用後、エミュレータで印刷する前に、メモ帳などで一度印刷しておく ローカルコピーのプロパティで出力先プリンタを設定する

No.9	プリンタセッションで、RFC1646 で規定されている以外のエラーコードを返す現象を修正
発生条件	プリンタセッションがメインフレームへ「電源 OFF」のレスポンスを返した場合。
障害内容	プリンタセッションで、RFC1646 で規定されている以外のエラーコードを返す。
アップデート 未実施時の 回避策	「電源 OFF」を返す下記要因を特定し、その要因を排除する。 <ul style="list-style-type: none"> ・出力先プリンタが見つからない ・ファイル出力設定だが、機能制限によりファイル出力が禁止されている

No.10	ローカルコピーを実行すると、ディスプレイセッションのガイドラインに「お待ちください」が表示されたままとなり印刷できない現象を修正
発生条件	以下の条件を満たしている場合。 <ul style="list-style-type: none"> ・ OS が Windows 10 Anniversary Update (Version 1607) 、または Windows 10 Creators Update (Version 1703) ・ エミュレータの利用形態がエミュレータコントロール ・ 出力先の設定が、「Microsoft Print to PDF」や「Microsoft XPS Document Writer」
障害内容	ローカルコピーを実行すると、ディスプレイセッションのガイドラインに「お待ちください」が表示されたままとなり印刷できない。
アップデート 未実施時の 回避策	特になし。

No.11	マクロコマンド使用時にホストからデータを受信すると、アプリケーションエラーとなる現象を修正
発生条件	<p>以下の条件を満たしている場合。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ エミュレータの利用形態が HTML 変換、あるいはエミュレータ Bean ・ 以下のいずれかのコマンドを実行するマクロを再生する（起動時マクロも含む） <ul style="list-style-type: none"> →TES.WaitText →TES.WaitString →TES.WhileText →TES.WhileString ・ 上記いずれかのコマンドがタイムアウトで終了し、マクロ再生が終了する ・ 上記のタイミングでホスト側よりデータを受信し、画面更新が発生する
障害内容	マクロコマンド使用時にホストからデータを受信すると、アプリケーションエラーとなる。
アップデート未実施時の回避策	特になし。

No.12	エミュレータ Bean で使用する JAR ファイルに対するコード署名の署名アルゴリズムを SHA-2 に変更
発生条件	<p>エミュレータ Bean を起動するクライアント OS に、以下のバージョンの JRE がインストールされている場合。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Version 8.0 Update 131（リリース日 2017年 4月 18日）
障害内容	<p>以下の現象が発生する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ エミュレータ画面右上に、警告を示す三角の小さな「！」マークが表示される ・ エミュレータ画面内の文字列をコピーできない ・ エミュレータ画面内に文字列を貼り付けられない ・ エミュレータ画面内でタブ/後退タブ機能キーによる入力フィールド間のカーソル移動ができない
アップデート未実施時の回避策	<p>インストールしている JRE を JRE Version 8.0 Update 131 よりも前のバージョンに戻す。</p> <p>※TCPLink Enterprise Server の Java アプレット以外に JRE を利用するすべての Java アプリケーションに影響し、かつセキュリティレベルが下がる結果となりますのでご注意ください。</p>

No.13	スタイル設定で、登録されているスタイルの削除を行うと、「HTTP 500 内部サーバーエラー」となる現象を修正 スタイル設定の上限を 300 とし、上限を超えてスタイルを作成しようとする とエラーメッセージを表示するよう変更
発生条件	以下の条件を全て満たしている場合。 ・エミュレーションに関係なく、TCPLink Enterprise Server 全体として、スタイル数が 99 以上ある ・スタイル設定からスタイルを削除する
障害内容	スタイル設定で、登録されているスタイルの削除を行うと、「HTTP 500 内部サーバーエ ラー」となる。
アップデート 未実施時の 回避策	特になし。

No.14	バージョンアップインストール時にエラーが発生し、バージョンアップイン ストールに失敗する現象を修正
発生条件	バージョンアップインストールを行った場合。
障害内容	バージョンアップインストールの途中でエラーが発生し、完了できないことがある。
アップデート 未実施時の 回避策	特になし。

No.15	「ダウンロードしない」を設定しても、クライアントにモジュールの一部がダウンロードされる現象を修正
発生条件	以下の条件を満たしている場合。 <ul style="list-style-type: none"> ・サーバマネージャの [ユーザグループの設定] - [時間の設定] - [ダウンロード・タイミング設定] で「ダウンロードしない」を設定する ・Ver6.01-01、または Ver6.02-01 の TCPLink Enterprise Server のバージョンアップを行う
障害内容	クライアントにモジュールの一部がダウンロードされる。
アップデート未実施時の回避策	特になし。

No.16	操作ログツールのアンインストール後、操作ログツールのプログラムメニューが削除されずに残る現象を修正
発生条件	操作ログツールをアンインストールした場合。
障害内容	操作ログツールのアンインストール後、プログラムメニューに操作ログツールのグループとアプリケーションの一覧が残ったままになる。
アップデート未実施時の回避策	アンインストール後、手動で残っているメニューを消す。

No.17	操作ログツールのインストール後、初回の操作ログビューア起動時にエミュレーションの問い合わせがある現象を修正
発生条件	インストール後、初回の操作ログビューア起動時。
障害内容	操作ログツールのインストール時にエミュレーションを選択するが、操作ログビューアの初回起動時に改めてエミュレーションの選択を求められる。また、必須条件なので、そのダイアログをキャンセルすることができない。(エミュレーションを必ず選択する必要がある)
アップデート未実施時の回避策	操作ログビューアの初回起動時にエミュレーションを選択する。

No.18	操作ログツールのインストーラで、「プログラムフォルダ名の指定」画面でショートカットキー「Alt+P」が効かない現象を修正
発生条件	操作ログツールのインストーラにて、「プログラムフォルダ名の指定」画面で「Alt+P」を押下した場合。
障害内容	カーソルが「プログラムフォルダ名 (P) :」の入力エリアへ移動せず、次の画面（エミュレータの選択画面）へ移動する。
アップデート 未実施時の 回避策	プログラムフォルダを入力する場合、マウス、またはTAB キーでカーソルを移動する。

作成日：2016年 6月28日

更新日：2016年10月12日

お客様各位

キャノンITソリューションズ株式会社

TCPLink
Enterprise Server
560 / 20 エミュレータ
バージョン 6.07 リビジョン01 変更内容について

拝啓 貴社益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は、当社製品に格別なるご愛顧を賜り、誠にありがとうございます。
さて、当社製品「TCPLink Enterprise Server 560/20 エミュレータ」
(Ver.6.04-01→Ver.6.07-01)において、下記のような改修を行いましたので
お知らせ致します。

敬具

記

[強化項目]

以下の機能を強化しました。

[システム全般]

◎以下の OS に対応しました。

<クライアント>

- ・ Microsoft Windows 10 Pro Edition
- ・ Microsoft Windows 10 Enterprise Edition
- ・ Microsoft Windows 10 Pro x64 Edition
- ・ Microsoft Windows 10 Enterprise x64 Edition

※Version 1511 で動作確認をしています。

◎以下の OS を動作対象から除きました。

<サーバ>

- ・ Microsoft Windows Server 2003 Standard Edition SP2
- ・ Microsoft Windows Server 2003 Enterprise Edition SP2
- ・ Microsoft Windows Server 2003 R2 Standard Edition SP2
- ・ Microsoft Windows Server 2003 R2 Enterprise Edition SP2
- ・ Microsoft Windows Server 2003 Standard x64 Edition SP2
- ・ Microsoft Windows Server 2003 Enterprise x64 Edition SP2
- ・ Microsoft Windows Server 2003 R2 Standard x64 Edition SP2
- ・ Microsoft Windows Server 2003 R2 Enterprise x64 Edition SP2
- ・ Microsoft Windows Server 2008 Standard Edition SP1
- ・ Microsoft Windows Server 2008 Enterprise Edition SP1
- ・ Microsoft Windows Server 2008 Standard x64 Edition SP1
- ・ Microsoft Windows Server 2008 Enterprise x64 Edition SP1
- ・ Microsoft Windows Server 2008 R2 Standard Edition SP 未適用
- ・ Microsoft Windows Server 2008 R2 Enterprise Edition SP 未適用

<クライアント>

- ・ Microsoft Windows XP Professional SP3
- ・ Microsoft Windows XP Professional x64 Edition SP2
- ・ Microsoft Windows 7 Professional SP 未適用
- ・ Microsoft Windows 7 Enterprise SP 未適用
- ・ Microsoft Windows 7 Ultimate SP 未適用
- ・ Microsoft Windows 7 Professional x64 Edition SP 未適用
- ・ Microsoft Windows 7 Enterprise x64 Edition SP 未適用
- ・ Microsoft Windows 7 Ultimate x64 Edition SP 未適用
- ・ Microsoft Windows 8 Pro Edition
- ・ Microsoft Windows 8 Enterprise Edition
- ・ Microsoft Windows 8 Pro x64 Edition
- ・ Microsoft Windows 8 Enterprise x64 Edition

◎クライアントが対応する Web ブラウザ環境を以下のようにしました。

<エミュレータコンポーネント/コントロールの場合>

- ・ Internet Explorer 11

※Windows Vista の場合のみ、Internet Explorer 9 にも対応しています。

<HTML 変換の場合>

- ・ HTML3.2 対応の Web ブラウザ

<エミュレータ Bean の場合>

- ・ 32bit 版の Internet Explorer 11

※Windows Vista の場合のみ、Internet Explorer 9 にも対応しています。

※JRE8 が動作している環境に限ります。

[サーバツール関連]

◎ユーザ登録ファイルによるサーバ設定の一括登録時の設定値チェックを強化しました。

[エミュレータコンポーネント/エミュレータコントロール関連]

◎標準ユーザモードの「スタイル」を設定できるようにしました。

◎ホストからの印刷データをファイルに出力する処理を高速化しました。

◎マクロの再生機能の処理を高速化しました。

◎マクロ編集ツールの [ファイル] メニューの「Windows95 版マクロファイルを開く」を「スタンダード版マクロファイルを開く」に変更しました。

[エミュレータコンポーネント関連]

◎セッション起動時にアプリケーションが予期せず終了する現象の回避方法を「ソフトウェア説明書」(Readme.txt)に記載しました。

[エミュレータ Bean 関連]

- ◎JRE のセキュリティにより、エミュレータ Bean の Java アプレットがブロックされ起動できなくなる現象の回避方法を「ソフトウェア説明書」(Readme.txt)に記載しました。

[ツール関連]

- ◎キーマシンツールの PC9821 キーボードは、サポート対象から除きました。

[セキュリティ関連]

- ◎SSL(Secure Sockets Layer)/TLS(Transport Layer Security)通信で SSLv3 プロトコルを無効にしました。

[マニュアル関連]

- ◎ブラウザの XSS (クロスサイトスクリプティング) フィルターの影響についての説明を「ソフトウェア説明書」(Readme.txt)に記載しました。

[改修項目]

以下の問題点を修正しました。

[インストーラ/アンインストーラ関連]

- ・標準ユーザモードをアンインストールしたのちに管理者承認モードでインストールができない。

[サーバツール関連]

- ・以下のショートカットが効かない。
＜サーバマネージャ＞
「ユーザグループの設定」画面から表示した「機能の設定」画面
 - ・ファイル転送－出力先(D)
 - ・ローカルコピー－出力先(D)
- ・キーマシンツールを以下の OS で利用している場合、[表示]メニューで項目の選択をデフォルト以外に切り替えると、選択状態を表す「●」が消える。
 - ・ Microsoft Windows Server 2012
 - ・ Microsoft Windows Server 2012 R2
- ・コードテーブル設定ツールを以下の OS で利用している場合、[オプション]メニュー、および[JIS コード指定]メニューで項目の選択をデフォルト以外に切り替えると、選択状態を表す「●」が消える。
 - ・ Microsoft Windows Server 2012
 - ・ Microsoft Windows Server 2012 R2

[エミュレータコンポーネント/エミュレータコントロール関連]

- ・サーバマネージャでユーザグループの「コピー」を行ったのちに「貼り付け」を行うと、貼り付けて登録したユーザグループのユーザでセッションが起動できない。
- ・サーバマネージャの [ユーザグループの設定]－[機能の設定]で「ローカルコピー」を有効にしても、「プロパティ」が無効であると、ディスプレイセッションの [印刷]メニューの「改ページ」がグレー表示になる。
- ・サーバマネージャの [ユーザグループの設定]－[機能の設定]で「プリンタ」/「ローカルコピー」の「ファイル出力指定を無効にする」を有効にしても、Windows 7 以降の環境で以下のすべての条件を満たす場合にファイル出力ができる。
 - ・出力先プリンタが Windows の共有プリンタである。
 - ・プリンタポート設定が「FILE:」である。

- ・セッションの起動と終了を繰り返すと、起動しようとしたディスプレイセッション、またはプリンタセッションでアプリケーションエラーが発生することがある。
- ・「終了時のディスプレイ情報の保存」を指定しているにもかかわらず、クライアント側で指定した文字セットが保存されない。
- ・「終了時のディスプレイ情報の保存」、あるいは「終了時のプリンタ情報の保存」を指定しているにもかかわらず、クライアント側で指定した JIS コード指定が保存されない。
- ・「ディスプレイのプロパティ」で「FEP を使用しない全角入力」にチェックが付いていても、全角フィールドで FEP を起動せずに入力した半角文字の「~」が全角文字の「~」で表示されない。
- ・「漢字空白文字の入力コード」が「4040」、かつ「漢字フィールドへの 1 バイトコード入力」にチェックが付いていない場合、ディスプレイセッションで、漢字フィールドに全角空白文字が入力できない。
- ・ディスプレイセッションで、80 桁目より右側も「背景色」に設定された色で表示される。
- ・ディスプレイセッションで、画面遷移しても、前画面の 81 桁目の文字が表示されたままになる。
- ・ディスプレイセッションで、編集機能の「貼り付け」でデータを貼り付けると、アプリケーションエラーが発生することがある。
- ・拡張フォントを使用する設定のディスプレイセッションで、拡張漢字を拡大（横倍／縦倍／倍角）すると、拡張漢字でない文字が拡大されて表示される。
- ・以下のすべての設定をすると、1 バイト文字の間隔が詰まって印刷される。
 - ・編集形式:ESC/P
 - ・印刷桁密度:20/3／40/3 CPI
- ・「プリンタのプロパティ」や「ローカルコピーのプロパティ」で、以下の項目にシフト JIS コードの 2 バイト目が「0x7c」の全角文字を含むフォルダやファイルを設定すると、ファイル名が正しくない旨のメッセージが表示される。
 - ・「基本設定」の「ファイル出力」
 - ・編集形式が「Windows プリンタドライバ」以外での「編集形式別設定」の「シーケンスファイル」
- ・編集形式が「Windows プリンタドライバ」以外の場合、ローカルコピーを行うと、アプリケーションエラーが発生することがある。
- ・パスワードによる認証を設定しているユーザのセッション一覧を表示すると以下の現象が発生する。
 - ・「パスワードの入力」ダイアログにフォーカスが当たらない。
 - ・「パスワードの入力」ダイアログ以外のブラウザ画面を操作しようとするブラウザで「Web ページの回復」が表示される。
- ・セッションサービスがエントランスサービスと同じサーバにインストールされていない場合、クライアント側で、スタイル設定の「ActiveX」のスタイルの追加ページに以下の接続形態が表示されない。
 - ・コンポーネント（標準ユーザモード）
 - ・コントロール（標準ユーザモード）

[エミュレータコントロール関連]

- ・セッション名に「#」を含むディスプレイセッション、プリンタセッションが起動しない。
- ・プリンタセッションの画面に、以下の設定の内容が表示されないことがある。
 - ・セッション名
 - ・編集形式
- ・Internet Explorer 11 でディスプレイセッション、またはプリンタセッションを起動すると、セッションの画面が真っ白になり起動できないことがある。

[HTML 変換/エミュレータ Bean 関連]

- ・TES.Prompt マクロで 2 バイト文字を含む文字列をセッション画面に入力すると、途中までしか入力されない。
- ・セッションサービスが以下の OS で稼動している場合、大量の HTML セッションを起動すると起動が遅くなる。
 - ・Microsoft Windows Server 2012
 - ・Microsoft Windows Server 2012 R2
- ・セッションの起動と終了を繰り返すと、セッションサービスでアプリケーションエラーが発生することがある。
- ・HTML セッショングループ配下のセッション、または HTML フリーセッション（複数）グループ配下のセッションの場合、セッション名に「¥」、「:」、「*」、「?」、「<」、「>」、「|」の文字が 1 つでも含まれていると、マクロの再生や記録ができない。
※マクロ記録では「マクロ記録停止エラー（現在再生中）」のメッセージが表示されます。

[HTML 変換関連]

- ・「漢字空白文字の入力コード」が「4040」、かつ「漢字フィールドへの 1 バイトコード入力」にチェックが付いていない場合、ディスプレイセッションで、漢字フィールドに全角空白文字が入力できない。

[エミュレータ Bean 関連]

- ・ディスプレイセッションにおいて、Clear キーの送信時に入力禁止メッセージが表示されることがある。
- ・セッションサービスの異常終了に伴い、HTML フリーセッション（複数）グループの「時間の設定」で設定されている「無通信状態のセッションの切断時間」が有効にならないことがある。

[ディスプレイセッション関連]

- ・「ディスプレイのプロパティ」で以下のすべての設定をすると、2 回目以降のセッションの起動時にメッセージが表示される。
 - ・コードテーブルの差分:設定
 - ・終了時のディスプレイ情報の保存:チェック
 - ・ディスプレイ情報の保存設定の変更を許可:チェック

表示されるメッセージは以下のとおりです。

「コンポーネントの初期化に失敗しました。(ITESCodeConv)(0x80042221, 0x0000FFFC)」

- ・ヘルプの機能キー一覧に以下の項目が記述されていない。
 - ・範囲↑
 - ・範囲←
 - ・範囲→
 - ・範囲↓
 - ・範囲解除
 - ・矩形↑
 - ・矩形↓
 - ・矩形←
 - ・矩形→
 - ・切取
 - ・コピー
 - ・コピー追加
 - ・貼付
 - ・全て選択

[プリンタセッション関連]

- ・サーバマネージャの [ユーザグループの設定] - [機能の設定] で「プロパティ」が無効であると、プリンタセッションの [印刷] メニューの「改ページ」がグレー表示になる。

- ・編集形式が「PC-PR201H」、かつ最大印刷行数が「3LPI」または「6LPI」の場合、罫線が印刷されないことがある。
- ・編集形式が「テキスト」、かつ印刷行密度が「8LPI」の場合、改行データが出力されない。
- ・編集形式が「Windows プリンタドライバ」以外の場合、印刷を行うと、アプリケーションエラーが発生することがある。
- ・印刷開始イベントが「セッションダウン」の場合、プリンタ状態が [データ待ち] のときにネットワークの切断によるセッションダウンが発生すると、印刷ジョブはクローズするが、プリンタ状態が [受信可能] にならずに [データ待ち] のままになる。
- ・「プリンタのプロパティ」で以下のすべての設定をすると、2 回目以降のセッションの起動時にメッセージが表示される。
 - ・コードテーブルの差分:設定
 - ・終了時のプリンタ情報の保存:チェック
 - ・プリンタ情報の保存設定の変更を許可:チェック

表示されるメッセージは以下のとおりです。

「コンポーネントの初期化に失敗しました。(ITESCodeConv)(0x80042221, 0x0000FFFC)」

- ・「プリンタのプロパティ」で以下のすべての設定をすると、「編集形式別設定」タブでフォントサイズ拡張の値が有効にならない。
 - 「基本設定」タブ
 - ・編集形式:Windows プリンタドライバ
 - ・印刷行密度:8 LPI
 - 「編集形式別設定」タブ
 - ・8LPI の行密度の印刷方式:フォントサイズ基準
- ・「プリンタのプロパティ」で以下のすべての設定をし、帳票印刷を行うと印字位置が下方向にずれていく。
 - ・編集形式:PC-PR201
 - ・印刷行密度:「6LPI」または「3LPI」

[ツール関連]

- ・キーサインツールで、キーアクションの文字列に全角文字 1 文字または半角文字 2 文字以下を登録したキーサインファイルの設定が正しく読み込まれず、ファイルを保存すると登録していた設定が消える。
- ・コードテーブル設定ツールで、フォント種別を「拡張文字のフォント」にして登録した拡張文字が、「一覧表示」に正しく表示されない。
- ・クライアントマネージャを最小化すると、省電力モード制御が動作しない。

[セキュリティ関連]

- ・クライアント側で Windows のユーザアカウントのパスワードをリセットすると、セッションが起動できないことがある。
- ・セキュリティ設定ツールで PKCS#12 形式の証明書が読み込めないことがある。
- ・死活監視などで、エントランスサービスに対してポートスキャンを行うと、メモリーリークが発生する。

[ヘルプ関連]

- ・クライアントマネージャのヘルプの [各種メニューの説明] – [クライアントマネージャのメインメニュー] に、 [オプション] メニューの [省電力モード] についての説明がない。
- ・ディスプレイセッションのヘルプの [タスクトレイアイコンからのセッション制御] に以下の誤りがある。
 - ・「ツール」の説明に対象のすべてのツール名が記載されていない。
 - ・「マネージャの終了」の説明がない。

[マニュアル関連]

- ・『ユーザーズマニュアル』の「サーバ設定」の「1-3. ディスプレイの構成定義」で、「ディスプレイの設定項目一覧」の“キーパッド設定”の“エミュレータコントロール”に以下の誤りがある。
誤：-（無効）
正：○（有効）

[API 機能関連]

- ・EHLLAPIの以下の関数で、指定されたすべての文字がフィールドにコピーできなかったとき、戻りコードが「6」にならず「0」となる。
 - ・Copy String To Field(33)
 - ・Copy String To Presentation Space(15)
- ※戻りコード「6」:HARC_TRUNCATION
戻りコード「0」:HARC_SUCCESS
- ・EHLLAPIの「Send Key(3)」を使って、ディスプレイセッションに複数行の文字列を書き込むと、1行目しか書き込まれない。

[その他]

以下の仮想環境での動作を確認しています。

サーバ環境

サーバ仮想化

仮想化システム	ゲスト OS	32 ビット	64 ビット
VMware vSphere 6.0	Microsoft Windows Server 2008 R2 Enterprise Edition SP1	—	○
	Microsoft Windows Server 2012 R2 Standard Edition	—	○
	Microsoft Windows Server 2012 R2 Datacenter Edition	—	○
Windows Server 2008 R2 Hyper-V	Microsoft Windows Server 2008 R2 Standard Edition SP1	—	○
Windows Server 2012 R2 Hyper-V	Microsoft Windows Server 2012 R2 Standard Edition	—	○

○：確認済み —：対象外

クライアント環境

デスクトップ仮想化

仮想化システム	仮想デスクトップ OS	32 ビット	64 ビット
Citrix XenDesktop 7.8	Microsoft Windows 7 Enterprise Edition SP1	○	○
	Microsoft Windows 8.1 Enterprise Edition	○	○
	Microsoft Windows 10 Enterprise Edition	○	○
Microsoft VDI (Windows Server 2012 R2)	Microsoft Windows 7 Enterprise Edition SP1	○	○
	Microsoft Windows 8.1 Enterprise Edition	○	○
	Microsoft Windows 10 Enterprise Edition	○	○

○：確認済み —：対象外

アプリケーション仮想化

仮想化システム	サーバ OS	32 ビット	64 ビット
Citrix XenApp 7.8	Microsoft Windows Server 2008 R2 Enterprise Edition SP1	—	○
	Microsoft Windows Server 2012 R2 Standard Edition	—	○

○：確認済み —：対象外

<前提条件>

仮想環境での利用を計画する場合、次の条件をふまえて検討してください。

- ・仮想化システム、ゲスト OS の保守については、お客様の責任でそれぞれのメーカー様、ベンダー様とご契約ください。
- ・ゲスト OS は、ネットワークの接続も含め正常に動作している必要があります。
- ・ゲスト OS のリソースは、ゲスト OS の必要分の他に弊社製品の H/W 要件を満たす十分なリソースを割り当ててください。
- ・仮想環境に起因する不具合は、弊社では対応できません。それぞれのメーカー様、ベンダー様までお問い合わせください。

弊社で確認した仮想化システムとゲスト OS のバージョンと違うバージョンを組み合わせた場合の動作については弊社営業にご相談ください。

以上

Microsoft、Windows、Windows Server、Windows Vista、Internet Explorer、Hyper-V および ActiveX は、米国 Microsoft Corporation の、米国、日本およびその他の国における登録商標または商標です。

お客様各位

キヤノンITソリューションズ株式会社

TCPLink
Enterprise Server
560 / 20 エミュレータ
バージョン 6.04 リビジョン01 変更内容について

拝啓 貴社益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は、当社製品に格別なるご愛顧を賜り、誠にありがとうございます。
さて、当社製品「TCPLink Enterprise Server 560/20 エミュレータ」
(Ver.6.03-01→Ver.6.04-01)において、下記のような改修を行いましたので
お知らせ致します。

敬具

記

[強化項目]

以下の機能を強化しました。

[システム全般]

- ◎クライアントからユーザのパスワードを変更できるようにしました。
また、ユーザによるパスワードの変更を許可する設定とともに、ユーザのパスワードに対して以下のポリシーも設定できるようにしました。
 - ・文字数
 - ・有効期間
 - ・変更禁止期間
 - ・規定の複雑さを満たすかをチェックするかどうか
- ◎ユーザのパスワードを暗号化して保存するようにしました。
また、設定画面ではパスワードを「*」で表示するようにしました。

[サーバツール関連]

- ◎サーバマネージャにおいて、ユーザ登録ファイルからのユーザ情報の登録時に、既に登録されているパスワードを優先するか否かを選択できるようにしました。
既に登録されているパスワードが空白の場合には、ユーザ登録ファイルに記載のパスワードが優先されません。
- ◎サーバマネージャにおいて、ユーザ登録ファイルからユーザグループを登録する場合、「デフォルトに設定」を指定したデータでユーザグループを登録するようにしました。

[エミュレータコンポーネント/エミュレータコントロール関連]

- ◎ディスプレイセッションにおいて、切り取り/コピー/コピー追加の編集操作で選択した矩形を移動できるようにしました。
キアサインの初期定義は以下のとおりです。

矩形 ↑	: [未定義]
矩形 ←	: [未定義]
矩形 →	: [未定義]
矩形 ↓	: [未定義]
- ◎ディスプレイセッションにおいて、切り取り/コピー/コピー追加の編集操作で選択した矩形を編集操作後も残せるようにしました。

◎ディスプレイセッションにおける以下のファイル選択操作で、操作している Windows のログオンユーザーが同端末で使用するすべてのディスプレイセッションで最後に参照したフォルダが開くようにしました。

- ・マクロファイル：指定、保存
- ・転送パラメータファイル：開く、保存

[マクロ関連]

◎Timeout コマンドに 0 秒を指定できるようにしました。

[ツール関連]

◎キーマシンで、「Alt + 文字キー」に機能を割り当てられるようにしました。

[操作ログ機能関連]

◎操作ログサービスの鍵の再生成時に、鍵のビット長を「1024 ビット」「2048 ビット」から選択できるようにしました。

◎操作ログサービスのイベントを Windows イベントログに出力できるようにしました。

◎操作ログの出力先の空き容量チェックに関する初期サイズを変更しました。

- ・警告を行う空き容量：500MB
- ・出力停止を行う空き容量：200MB

[セキュリティ関連]

◎暗号化通信で TLS V1.2 に対応しました。

◎SHA-2 で署名された証明書に対応しました。

※クライアント認証で使用する証明書を Windows 証明書ストアに格納する際、秘密鍵はエクスポート可能に設定する必要があります。

[改修項目]

以下の問題点を修正しました。

[サーバツール関連]

- ・サーバマネージャにおいて、ユーザ登録ファイルの保存に失敗してもエラーメッセージが表示されない。
- ・サーバマネージャにおいて、ユーザ登録ファイルによるセッション情報の削除後に画面操作でセッショングループを削除すると、アプリケーションエラーが発生することがある。
- ・サーバマネージャでユーザ登録ファイルによるユーザ情報の登録処理中にクライアントでエミュレータ操作を行うと、アプリケーションエラーが発生することがある。
- ・サーバマネージャにおいて、情報ファイルの反映を実行すると、システム上問題がないにもかかわらず以下のエラーメッセージが表示されることがある。
「サービスが停止されました。
これ以降、状況を正しく表示できませんので、サーバマネージャを停止します。
(00001003)」

[エミュレータコンポーネント/エミュレータコントロール関連]

- ・セッション起動時のダウンロード画面の表示中に、アプリケーションエラーが発生することがある。
- ・Windows Vista または Windows 7 において、Windows のデスクトップのカスタマイズで「ClearType」を有効にしている場合に、ディスプレイセッションで文字を入力すると、下線の一部や文字と隣り合った縦罫線が消えることがある。

- ・ディスプレイセッションにおいて、待機系のマクロコマンド(TEs.Waitxxxx/TEs.Whilexxxx)で待機中にマクロを終了すると、アプリケーションエラーが発生することがある。
- ・ディスプレイセッションのローカルコピー、またはプリンタセッションでの印刷において、印刷ジョブのクローズ処理中に次の印刷要求が行われると、アプリケーションエラーが発生する。
- ・出力先のプロパティを変更しているローカルコピーまたはプリンタのプロパティで出力先を変更した場合に、編集形式を「Windows プリンタドライバ」以外に変更しても、「出力先プリンタに対するプロパティ情報が一致しません」のメッセージが表示され保存できない。
- ・サーバマネージャでユーザ登録ファイルにより画面セッションと同時に起動するように設定されたペアプリンタのプリンタ情報を削除すると、ディスプレイセッション起動時にペアプリンタを起動しようとしてエラーが発生する。

[マクロ関連]

- ・複数の For 文を記述したマクロファイルで、ExitFor で1つ目の For 文を抜けると、後続の For 文をスキップする。

[運用管理関連]

- ・接続セッション数が 1000 以上の場合、リモートエントランスモニタのパスワード入力時に以下のエラーが発生することがある。
「パスワードが入力されていないか、もしくはリモートセッションモニタでタイムアウトが発生しました。パスワードを入力してください。」

[セキュリティ関連]

- ・標準ユーザモードでハードウェアトークンの設定を追加しようとする、設定ファイルへの書き込みに失敗する。

[その他]

以下の仮想環境での動作を確認しています。

サーバ環境

サーバ仮想化

仮想化システム	ゲスト OS	32 ビット	64 ビット
VMware ESXi 4.1 Update2	Windows Server 2003 Standard Edition SP2	○	—
	Windows Server 2003 R2 Standard Edition SP2	○	○
	Windows Server 2008 Standard Edition SP2	○	○
	Windows Server 2008 R2 Standard Edition SP1	—	○
VMware vSphere 5.0	Windows Server 2003 R2 Standard Edition SP2	○	○
	Windows Server 2008 Standard Edition SP2	○	○
	Windows Server 2008 R2 Enterprise Edition SP1	—	○
VMware vSphere 5.0 Update1	Windows Server 2003 R2 Standard Edition SP2	○	○
	Windows Server 2008 Standard Edition SP2	○	○
	Windows Server 2008 R2 Enterprise Edition SP1	—	○
VMware vSphere 5.1	Windows Server 2008 R2 Standard Edition SP1	—	○
Microsoft Hyper-V 2.0 (Windows Server 2008 R2)	Windows Server 2008 R2 Standard Edition SP1	—	○

○：確認済み —：対象外

クライアント環境

デスクトップ仮想化

仮想化システム	仮想デスクトップ OS (ホスト: Hyper-V 2.0)	32 ビット	64 ビット
XenDesktop 5.6	Windows XP Professional Edition SP3	○	—
	Windows Vista Enterprise Edition SP2	—	○
	Windows 7 Professional Edition SP1	—	○
Microsoft VDI (Windows Server 2008 R2)	Windows XP Professional Edition SP2	—	○
	Windows XP Professional Edition SP3	○	—
	Windows Vista Enterprise Edition SP2	○	○
	Windows 7 Professional Edition SP1	○	○

○：確認済み —：対象外

アプリケーション仮想化

仮想化システム	サーバ OS	32 ビット	64 ビット
XenApp 6.5	Windows Server 2008 R2 Standard Edition SP1	—	○

○：確認済み —：対象外

<前提条件>

仮想環境で利用を計画する場合、次の条件をふまえて検討してください。

- ・仮想化システム、ゲスト OS の保守については、お客様の責任でそれぞれのメーカー様、ベンダー様とご契約ください。
- ・ゲスト OS は、ネットワークの接続も含め正常に動作している必要があります。
- ・ゲスト OS のリソースは、ゲスト OS の必要分の他に弊社製品の H/W 要件を満たす十分なリソースを割り当ててください。
- ・仮想環境に起因する不具合は対応できかねます。

弊社で確認した仮想化システムとゲスト OS のバージョンと違うバージョンを組み合わせた場合の動作については弊社営業にご相談ください。

以 上

お客様各位

キャノンITソリューションズ株式会社

<p>TCPLink Enterprise Server 560 / 20 エミュレータ バージョン 6.03 リビジョン01 変更内容について</p>
--

拝啓 貴社益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は、当社製品に格別なるご愛顧を賜り、誠にありがとうございます。
さて、当社製品「TCPLink Enterprise Server 560/20 エミュレータ」
(Ver.6.02-01→Ver.6.03-01)において、下記のような改修を行いましたので
お知らせ致します。

敬具

記

[強化項目]

以下の機能を強化しました。

[システム全般]

◎以下の OS に対応しました。

<サーバ>

- ・ Windows Server 2008 R2 Standard (SP1)
- ・ Windows Server 2008 R2 Enterprise (SP1)

<クライアント>

- ・ Windows 7 Professional (SP1)
- ・ Windows 7 Enterprise (SP1)
- ・ Windows 7 Ultimate (SP1)
- ・ Windows 7 Professional x64 Edition (SP1)
- ・ Windows 7 Enterprise x64 Edition (SP1)
- ・ Windows 7 Ultimate x64 Edition (SP1)

◎以下の OS を動作対象から除きました。

<サーバ>

- ・ Windows 2000 Server (SP4)

<クライアント>

- ・ Windows Vista Business Edition (SP1)
- ・ Windows Vista Enterprise Edition (SP1)
- ・ Windows Vista Ultimate Edition (SP1)
- ・ Windows Vista Business x64 Edition (SP1)
- ・ Windows Vista Enterprise x64 Edition (SP1)
- ・ Windows Vista Ultimate x64 Edition (SP1)
- ・ Windows XP Professional (SP2)
- ・ Windows XP Professional x64 Edition (SPなし)
- ・ Windows 2000 Professional (SP4)

◎以下の動作環境を変更しました。

<サーバ (ターミナル サービスを利用する場合) >

- ・ ハードディスク : 20MB 以上の空きが必要

<クライアント>

- ・ ハードディスク : 20MB 以上の空きが必要

◎以下のブラウザに対応しました。

- ・ Internet Explorer 9

[エミュレータコンポーネント/エミュレータコントロール関連]

◎Windows Vista/7 の標準ユーザーでインストールして利用できるようにしました。

※専用の Web ページを使用します。

※Internet Explorer 8 以降の対応です。

◎OS が省電力モードに移行する際の動作を選択できるようにしました。

<選択動作>

- ・スリープを拒否する (初期設定)
- ・スリープを許可する
- ・移行を許可するかどうかを選択するダイアログを表示する

※Windows Vista/7 の場合、ダイアログの表示は選択できません。

◎複数のローカルコピー定義を作成できるようにしました。

ディスプレイセッションで、使用するローカルコピー定義を選択します。

◎以下のマクロコマンドを追加しました。

- ・TES.CopyString : 指定した位置から指定した文字数分の文字をコピーする
- ・TES.CopyRange : 指定した範囲の文字をコピーする
- ・TES.Paste : 指定した位置にコピーされた文字を貼り付ける

※TES.Paste はマクロ記録できません。

◎キーパッドの各ボタンのサイズを最もサイズの大きいボタンに合わせました。

[改修項目]

以下の問題点を修正しました。

[インストーラ/アンインストーラ関連]

- ・マクロ機能が有効なクライアントに、マクロ機能を無効に設定したサーバからバージョンアップインストールを行うと、マクロ機能に関するファイルがインストールされない。
- ・他のアプリケーションで「CJS 特殊フォント」を参照した状態で、V5.01-02 以前から V5.01-03 以上へのクライアントのバージョンアップインストールを行うと、一部のファイルがインストールされない。
- ・クライアントアドミニストレーションキットの「サイレントインストール」を行うと、ヘルプがインストールされない。
- ・クライアントのアンインストールで、Temp フォルダの"cjstescl.dll"が削除されない。
- ・サーバのインストール時、ライセンスの登録で、不正なシリアル番号またはライセンスキーを入力しても、エラーメッセージが表示されず入力画面のままとなる。

[サーバツール関連]

- ・ライセンスの追加で、不正なシリアル番号またはライセンスキーを入力しても、エラーメッセージが表示されず入力画面のままとなる。
- ・ユーザ登録ファイルから大量のユーザ情報の登録を行うと、マスタマネージメントサーバからミラーマネージメントサーバに情報が反映されないことがある。
- ・フリーセッショングループの 1 ユーザ毎の最大接続セッション数の設定が、マスタマネージメントサーバからミラーマネージメントサーバに反映されない。
- ・Windows Server 2003 の 64 ビット環境の場合、コードテーブル設定で、ホストコードと PC コードの変換テーブルの文字一覧が文字化けして表示される。

[HTML 変換/エミュレータ Bean 関連]

- ・マクロの待機系コマンドが実行中であると、ディスプレイセッションを終了できない。

[エミュレータコンポーネント関連]

- ・クライアントでの設定変更を許可しない場合、サーバ側で以下の設定を有効にしても、一度無効の設定でセッションを利用していると、セッション終了時に定義情報が保存されない。
 - ・ディスプレイ定義 : 「終了時のディスプレイ情報の保存」
 - ・ローカルコピー定義 : 「終了時のプリンタ情報の保存」
 - ・プリンタ定義 : 「終了時のプリンタ情報の保存」

[エミュレータコンポーネント/エミュレータコントロール関連]

- ・CSS560 接続で、VT アソシエーション確立要求の送信後にホストとの接続を切断することがある。
- ・サーバおよびクライアントのディスプレイ定義で以下の両設定を無効にすると、サーバ側の「起動時のウィンドウ形態」の設定にかかわらず、通常のウィンドウ形態でセッションが起動する。
 - ・「終了時のディスプレイ情報の保存」
 - ・「ウィンドウ位置情報の保存」
- ・同じ「キーパッド・ファイル」を設定した複数のディスプレイセッションを同時に起動すると、キーパッドが表示されないことがある。
- ・編集形式が「IBM5575/5577」かつ外字印刷方法が「プリンタ外字登録」のプリンタセッションで、外字が印刷されないことがある。
- ・出力先のプリンタを削除またはプリンタ名を変更した状態で印刷を実行すると、「予期せぬエラーが発生しました。」のメッセージが表示されることがある。

[ファイル転送関連]

- ・ファイル転送パネルでイベントウィンドウを表示しようとする、アプリケーションエラーが発生することがある。
- ・ファイル転送パネルの以下の画面で [キャンセル] ボタンを選択すると、パネルの終了時に転送パラメータファイル (拡張子 CIF) がデスクトップに作成される。
 - ・名前を付けて保存 (転送パラメータファイル) 画面
 - ・参照 (PC ファイル) 画面

[ツール関連]

- ・クライアントマネージャをショートカットから起動すると、「cjsclrun は動作を停止しました」のメッセージが表示されることがある。

[セキュリティ関連]

- ・ファイルからの電子証明書の読み込みで以下のファイルを指定すると、セキュリティ設定画面が固まる。
 - ・拡張子が pem で、Base64 で記述されていない証明書ファイル
 - ・拡張子が p7b で、PKCS#7 形式でない証明書ファイル
- ・セキュリティ設定で「レスポндаの電子証明書」の「発行先」と「発行元」が逆に表示される。

[その他]

以下の仮想環境での動作を確認しています。

サーバ環境

サーバ仮想化

仮想化システム	ゲスト OS	32 ビット	64 ビット
VMware ESXi 4.0 Update1	Windows Server 2003 Standard Edition SP2	○	○
	Windows Server 2003 R2 Standard Edition SP2	○	○
	Windows Server 2008 Standard Edition	○	○
	Windows Server 2008 Standard Edition SP2	○	○
	Windows Server 2008 R2 Standard Edition	—	○
VMware ESXi 5.0	Windows Server 2008 R2 Standard Edition SP1	—	○

○：確認済み —：対象外

クライアント環境

デスクトップ仮想化

仮想化システム	仮想デスクトップ OS (ホスト: Hyper-V 2.0)	32 ビット	64 ビット
XenDesktop 4.0	Windows XP Professional SP2	—	○
	Windows Vista Enterprise SP2	○	○
	Windows 7 Enterprise SP1	—	○
XenDesktop 5.5	Windows Vista Enterprise SP2	○	○
	Windows 7 Enterprise SP1	○	○
Microsoft VDI (Windows Server 2008 R2 Standard Edition SP1)	Windows 7 Enterprise	○	—
	Windows 7 Enterprise SP1	○	—

○：確認済み —：対象外

アプリケーション仮想化

仮想化システム	サーバ OS	32 ビット	64 ビット
XenApp 6.5	Windows Server 2008 R2 Standard Edition SP1	—	○

○：確認済み —：対象外

<前提条件>

仮想環境で利用を計画する場合、次の条件をふまえて検討してください。

- ・仮想化システム、ゲスト OS の保守については、お客様の責任でそれぞれのメーカー様、ベンダー様とご契約ください。
- ・ゲスト OS は、ネットワークの接続も含め正常に動作している必要があります。
- ・ゲスト OS のリソースは、ゲスト OS の必要分の他に弊社製品の H/W 要件を満たす十分なリソースを割り当ててください。
- ・仮想環境に起因する不具合は対応できかねます。

弊社で確認した仮想化システムとゲスト OS のバージョンと違うバージョンを組み合わせた場合の動作については弊社営業にご相談ください。

以 上

作成日：2009年12月24日

更新日：2011年10月25日

お客様各位

キヤノンITソリューションズ株式会社

<p>TCPLink Enterprise Server 560 / 20 エミュレータ バージョン 6.02 リビジョン01 変更内容について</p>
--

拝啓 貴社益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は、当社製品に格別なるご愛顧を賜り、誠にありがとうございます。
さて、当社製品「TCPLink Enterprise Server 560/20 エミュレータ」
(Ver.6.01-01→Ver.6.02-01)において、下記のような改修を行いましたので
お知らせ致します。

敬具

概要

[強化項目]

以下の機能を強化しました。

[システム全般]

◎以下の OS に対応しました。

<サーバ>

- ・ Windows Server 2008 Standard (SP2)
- ・ Windows Server 2008 Enterprise (SP2)
- ・ Windows Server 2008 R2 Enterprise
- ・ Windows Server 2008 R2 Standard
- ・ Windows Server 2008 Standard x64 Edition (SP2)
- ・ Windows Server 2008 Enterprise x64 Edition (SP2)

<クライアント>

- ・ Windows 7 Professional
- ・ Windows 7 Enterprise
- ・ Windows 7 Ultimate
- ・ Windows 7 Professional x64 Edition
- ・ Windows 7 Enterprise x64 Edition
- ・ Windows 7 Ultimate x64 Edition
- ・ Windows Vista Business (SP2)
- ・ Windows Vista Enterprise (SP2)
- ・ Windows Vista Ultimate (SP2)
- ・ Windows Vista Business x64 Edition (SP2)
- ・ Windows Vista Enterprise x64 Edition (SP2)
- ・ Windows Vista Ultimate x64 Edition (SP2)
- ・ Windows XP Professional (SP3)

◎以下の OS が動作対象から除かれました。

<サーバ>

- ・ Windows Server 2003 Standard (SP1)
- ・ Windows Server 2003 Enterprise (SP1)
- ・ Windows Server 2003 R2 Enterprise
- ・ Windows Server 2003 R2 Standard
- ・ Windows Server 2003 Standard x64 Edition (SP1)
- ・ Windows Server 2003 Enterprise x64 Edition (SP1)
- ・ Windows Server 2003 R2 Standard x64 Edition
- ・ Windows Server 2003 R2 Enterprise x64 Edition

<クライアント>

- ・ Windows XP Professional (SP1)
- ・ Windows XP Professional x64 Edition (SP1)

◎サーバコンピュータシステムの動作環境が変更になりました。

- ・ CPU : 1.4GHz 以上 (推奨 2GHz 以上)
- ・ Web サーバ環境 : Internet Information Services7.5 を追加

[インストーラ関連]

◎インストールにおいて、TCPLink Enterprise Server のサービスを開始する前に、システムプロパティでサービスの設定を変更できるようにしました。

[サーバツール関連]

◎マネージメントサービスの監視をできるようにしました。

これにともない、システムプロパティに以下の監視設定を追加しました。

- ・ エントランスサービスからの受信監視間隔
- ・ ミラー側マネージメントサービスからの受信監視間隔
- ・ マネージメントサービス間のポーリング間隔
- ・ マスタ側マネージメントサービス継続的異常の判断

◎システムプロパティで、セッションサービスのトレース出力先フォルダを設定できるようにしました。

◎クライアントアドミニストレーションキットで、以下のオプションを指定してクライアントインストール媒体を作成できるようにしました。

- ・ クライアントマネージャのショートカットを作成する
- ・ サイレントインストールを行う

◎リモートセッションモニタの抽出条件設定画面で、ユーザ名の指定をコンボボックスから直接入力に変更しました。

[エミュレータコンポーネント/エミュレータコントロール関連]

◎セッション終了時のウィンドウの位置情報を保存できるようにしました。

◎プリンタセッションの「プリンタ定義」メニューのサブメニューに、設定名とともにコメントを表示するようにしました。また、設定選択時に、サブメニューの先頭にチェックマークを付け、プリンタセッションのメッセージ欄に設定名とコメントを表示するようにしました。

[操作ログ機能関連]

◎操作ログビューアで、指定した文字列をハイライト表示するようにしました。

[改修項目]

以下の問題点を修正しました。

[サーバツール関連]

- ・「ログインユーザ名」に漢字や半角カタカナを指定したユーザ登録ファイルを開くと、内容不正のエラーになる。
- ・設定ファイルを残してアンインストールした環境に再インストールを行うと、サーバマネージャで、ユーザ登録ファイルの「開く」メニューがグレー表示されることがある。
- ・サーバマネージャ、およびセッションモニタを終了すると、セッションの起動に時間が掛かるようになることがある。
- ・フリーセッションの場合、セッションモニタ、およびリモートセッションモニタにクライアント情報が表示されない。

[エミュレータ Bean 関連]

- ・縦に並んだ文字列をコピーして貼り付けると、カーソル位置のフィールドに全てが横並びに貼り付く。

[エミュレータコンポーネント/エミュレータコントロール関連]

- ・ディスプレイセッションにおいて、ブリンク属性文字を含む画面でアプリケーションエラーが発生することがある。
- ・ディスプレイセッションにおいて、数字用キーロックの設定を動的変更しても、フィールドモードの表示に反映されていないことがある。
- ・ディスプレイセッションにおいて、拡張漢字の後の ANK が正しいフォントで表示されないことがある。
- ・Windows ログオンユーザーのプロファイルのパスに別マシンの共有フォルダが設定されていると、クライアントでの設定変更が保存されない。

[エミュレータコントロール関連]

- ・Internet Explorer 6 環境で Ver.6.01-01 を使用する場合、ディスプレイセッションでフォーカスを他のウィンドウに移動すると、プレゼンテーションスペース内のカーソルへのフォーカスが失われる。

[ディスプレイセッション関連]

- ・カーソル移動キーで、保護フィールドにカーソルが移動することがある。
- ・CSS560 接続で、セッションを起動してホストにログオンしないままにすると、通信チェック 960 になる。
- ・CSS560 接続で、ログオン操作時、「お待ちください」のメッセージが消えても画面がそのまま、ログオン操作ができなくなることがある。

[ツール関連]

- ・ログ解析ツールで、ログファイルの範囲の開始日時と終了日時にレポート表示操作の当日を設定し、0~9 時台にレポート表示を実行すると、正しく出力されない。

[操作ログ機能関連]

- ・操作ログを採取するイベントに「画面キャプチャ操作」を設定している場合、セッション使用中に他のアプリケーションで貼り付け操作を行うと、セッションが終了することがある。
- ・操作ログビューアで、「新しいウィンドウを開く (コピー)」メニューを選択すると、アプリケーションエラーが発生することがある。

- ・ 操作ログビューアで、検索中に検索結果ビューの内容を選択すると、検索結果がおかしくなることがある。

[API 機能関連]

- ・ PCSAPI の pcsStartSession でクライアントマネージャのダウンロードが行われるとエラーになる。

[セキュリティ関連]

- ・ Windows Vista 環境においてクライアント証明書を使用すると、正常にダウンロードが行われないことがある。
- ・ サーバ証明書の警告ダイアログで”いいえ”を選択すると、通信チェック 930 になることがある。

[その他]

以下の仮想環境での動作を確認しています。

仮想化システム	ゲスト OS	32 ビット	64 ビット
VMware ESXi 3.5	Windows Server 2003 R2 Enterprise Edition	○	○
	Windows Server 2008 Enterprise Edition SP2	○	○
VMware ESXi 4.0	Windows Server 2003 R2 Enterprise Edition	○	○
	Windows Server 2003 R2 Standard Edition SP2	○	○
	Windows Server 2008 Standard Edition SP2	○	○
Microsoft Hyper-V 2.0	Windows Server 2003 R2 Standard Edition SP2	○	○
	Windows Server 2008 Standard Edition SP2	○	○
	Windows Server 2008 R2 Standard Edition	—	○

○：確認済み —：対象外

<前提条件>

仮想環境で利用を計画する場合、次の条件をふまえて検討してください。

- ・ 仮想化システム、ゲスト OS の保守については、お客様の責任でそれぞれのメーカー様、ベンダー様とご契約ください。
- ・ ゲスト OS は、ネットワークの接続も含め正常に動作している必要があります。
- ・ ゲスト OS のリソースは、ゲスト OS の必要分の他に弊社製品の H/W 要件を満たす十分なリソースを割り当ててください。
- ・ 仮想環境に起因する不具合は対応できかねます。

弊社で確認した仮想化システムとゲスト OS のバージョンと違うバージョンを組み合わせた場合の動作については弊社営業にご相談ください。

以 上